

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597100076		
法人名	医療法人 おかはら会		
事業所名	グループホーム ほうばいの絆		
所在地	大島郡周防大島町大字小松91番地4		
自己評価作成日	平成25年8月15日	評価結果市町受理日	平成26年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『その方がその方らしく、生き生き輝いて、『生きている』と実感できる居場所を作ること。』 『安心して暮らしていただくために、いつもその方のお気持ちを一番に考えること。』 『ご家族や地域とのつながりを大切にし、皆で支え合って生きていくこと。』 そんな思いを持って日々運営に取り組んでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居時のアセスメントシートを活用されている他、日々の関わりの中で利用者の思いや意向の把握に努めておられます。日常の会話の中で、利用者の行きたい所や食べたい物、やってみたいことなどを聞かれて、友人に会いに行くことを実現されたり、利用者が欲しいものを聞いておかれて、サプライズで誕生日にプレゼントされるなど、把握された利用者の思いや要望を個別の行事計画に組み込まれて実施しておられます。利用者が職員に向けて山本五十六や司馬遼太郎の講座をされたり、花摘みをして押し花にしてはがきづくりをされたり、フェイシャルエステをしてもらうなど楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、利用者が張り合いや喜びのある日々が過ごせるよう支援をされています。月1回のミーティング時に、職員一人ひとりが意見や提案を記入して持参し、議題として話し合われることで、職員が意見を言いやすくするように工夫しておられます。法人の医療機関が協力医療機関であり、利用者のかかりつけ医となり、受診の支援や往診、緊急時の対応、訪問看護師との連携など適切な医療が受けられる他、看取りの支援もされるなど、職員や家族の安心につなげておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人、事業所ともに理念はあるが、まだまだあまり浸透していないため、実践できていない。ただ、今年度からは、『皆さんの日常は毎日特別！』という取り組みをしているので、理念を踏まえた実践は始めている。	法人の理念を法人研修で確認し共有している。「・あなたらしく、生き活き輝いて、『生きている』と実感できる居場所を作ります。・安心して暮らしていただくために、いつもあなたのお気持ちを一番に考えます。・ご家族や地域とのつながりを大切に、皆で支え合って生きていきます。」という事業所独自の理念があり、パンフレットに記載しているが、全職員への意識づけが不十分で、理念を共有し実践につなげるまでには至っていない。	・事業所独自の理念の共有と実践
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだまだ不十分だが、地域のお祭りや、近所のいちご狩りなどに出かけた。地域の人たちの見学は多いが、つながりというところまでには至っていない。お便りの回覧は自治会長にお願いして毎月一回している。	町や商船学校、地域のいろいろな事業所などが一緒になって、2か月に1回行っている「ふるさと市」に利用者が出かけたり、法人主催の夏祭りに地域の人参加があり交流をしている。事業所だよりを毎月自治会に回覧する他、町からの依頼で地域住民に認知症についての講座を開いたり、地域の方の事業所への見学があるなど、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の中ではしているが、地域の方に向けてはしていない。地域の方が、認知症について、まだまだ理解されていないと感じることもあった。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	今回初めてなので、今回の評価を生かしたい。外部評価の意義については8月末のミーティングで事業所スタッフに伝える予定。	評価の意義を職員に説明し、自己評価をするための書類を全職員に配布して記入してもらい、管理者がまとめている。介護計画を作成するための会議の充実やモニタリング、避難訓練について、課題として捉えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員が名札をつけるかつかないか、については、運営推進会議でいろいろな方から意見をもらい、事業所で話し合った。小学生との交流についても意見が出たが、実際の取り組みはこれから。	同法人の小規模多機能居宅介護事業所と合同で2ヶ月に1回開催している。それぞれの施設の利用者と家族や自治会長、地域包括支援センター長、医療機関のソーシャルワーカーなどが参加している。DVDで利用者の生活の様子を伝え、事業所の状況や活動、行事、研修、インシデントやアクシデント、看取りの報告などをして意見交換している。事業所の報告に関する質問や意見があり、話し合っているが、サービス向上に活かすまでには至っていない。	・メンバーの拡大と会議の活かし方の検討
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携不足。申請や質問がある時にしか連絡していない。	町の担当課に出向いて報告したり、電話やメールで情報交換や相談をするなど協力関係を築くように努めている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設前から玄関にカギをかけないことは事業所の方針として行ってきた。身体拘束の内容については事業所内研修を行い実践している。家族にも介護計画作成時や面会時などに話して理解を求めている。	身体拘束について内部研修で学び、職員は理解して、玄関に施錠せず、スピーチロックについては職員間で注意し合うなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。自宅に帰りたい利用者と職員が一緒に家まで行くなど、利用者の気持ちに添う支援をしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の種類については事業所内研修を行い実践しているが、法律については研修していない。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、日常生活自立支援事業について社会福祉協議会に実際に相談に行ったこともあるが、事業所内研修などまだできていない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている。退去の際の情報提供や、利用料金説明なども行った。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が行っている。書面にて周知している。必要な人とは個人的に時間を設けて管理者が対応している。	相談・苦情受付体制や処理手続きを定め、契約時に重要事項説明書で家族に説明している。玄関に意見箱を設置している他、電話や面会時、介護計画の相談時などで意見や要望を聞いている。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の仕事の中や月一回のミーティングの中で実践している。ミーティングでは毎月一人一議題考えてきてもらって話合っている。	毎月1回のミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設け、職員一人一議題を紙面に書いて持ち寄り話し合っている。連絡ノートを目的別に2つに分けたり、書類の様式の改善や朝食づくりについての提案など、意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業を極力しない体制、有給の取得などに努めている。休憩場所は自由にしている。健康診断も定期的に実施している。代表者は入職して3カ月以降にすべての職員に対して面談を行っているし、随時現場を見に来てくれている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は年間計画を立て、月1回定例的に行っている。外部の研修にも参加している。	外部研修は職員に情報を伝え、希望や段階に応じて、勤務の一環として参加の機会を提供している。年間計画にそって月1回行う法人の研修に職員1～2名が参加し、ミーティング時に口頭で復命報告している。法人の委員会(接遇、アメレク、健康安全)にそれぞれの担当職員が参加し、ミーティングで復命報告をして、資料を閲覧できるようにして共有している。内部研修は、毎月のミーティングの後、10分程度、時期に合った内容で管理者が講師となって実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設前に他グループホームに見学・研修に行ったがその後はできていない。今後、グループホーム協会に入会予定。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護計画を作成する際に意見を聞いたり、関わりを密にして情報収集や関係作りに努めている。アンケートも人によっては実施している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護計画を作成する際に意見を聞いたり、関わりを密にして情報収集や関係作りに努めている。アンケートも人によっては実施している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問看護ステーションや医療機関などへの対応をしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	努めている。家事や買い物など、できるだけやっていただいているし、お一人お一人のことを大切に思い、一緒に暮らすものとして職員がいる。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努めている。お便り発行だけでなく、ご家族対応の外出や外泊も働きかけているが、面会の少ない方、ご家族との縁が薄い方については難しいと感じることもある。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。入居者によるが、家に帰ったり、友人に会いに行ったりした。	地域の人や教え子、友人、親族などの来訪がある他、自宅へ職員と一緒にいたり、他施設に入所中の夫に面会したり、夫婦で行ったことのある思い出の場所まで出かけたり、馴染みの店での食事や近く美容院の利用、家族との電話の支援、家族の協力を得て法事への参加、墓参り、盆、正月の外泊など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めてはいるが、身体状況や相性もあり、難しいと感じる場面も多い。その都度ベストだと思える距離感を職員が把握して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話やメールで連絡を取っている。看取りをした方のご家族の家にも初盆にお邪魔した。事業所に遊びに来てくださることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。受け身で遠慮がちな方が多く、意向を引き出すのは難しいと感じることも多いが、ミーティングでは個別ケアとして話し合っている。	入居時のアセスメントシートの活用を活用する他、日常の様子や会話を介護記録に記録し、思いや意向の把握に努めている。日常会話の中で、行きたいところや食べたいもの、やりたいことなどを聞いて、友人に会いに行ったり、欲しいものを聞いて誕生日にプレゼントするなど、把握した利用者の要望を介護計画にあげて実施している。困難な場合は家族から話を聞いたり、日常の様子から職員で話し合って、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。ご本人やご家族に聞き、記録している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。ご本人やご家族に聞き、記録している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングでの職員の意見を反映して計画作成者が作成しているが、もう一步。ご本人やご家族のご要望についてもっと聞いて、反映させていければと感じる。	本人の思いや家族の意向、主治医の意見、ミーティングでの職員の意見などを参考にして、計画作成担当者が介護計画を作成している。6か月ごとにモニタリングを実施し、評価して見直しをしている他、利用者の状態に変化が生じた時はミーティングで話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践している。日々の記録やミーティングで話し合った内容などで介護計画を見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	早期退院の支援や、重度化への対応、看取り介護を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	主に家族が社会資源となっており、その他はまだまだ把握しきれていない。しかし、近所のスーパーや郵便局・銀行、理美容院や図書館など、少しずつ把握している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。かかりつけ医だけでなく、ご本人やご家族から希望があれば、他の病院も受診している。	利用者は協力医療機関をかかりつけ医としている。受診の支援や家族の協力を得て他科受診の支援をしている。往診がある他、緊急時の対応や訪問看護師による健康管理など、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。訪問時や受診後の訪問看護への報告や、相談はよくしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。入院した病院の主治医と家族の間に入ってコミュニケーションを図っている。また、運営推進会議には、近くの総合病院のソーシャルワーカーの方に参加していただいている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは1件の実績があるが、まだまだ手探り状態。しかし、家族・医療機関とチームを組んで対応できたと感じる。看取りが終わったあと、他入居者の家族に終末期についての意見を聞いたが、まだピンとこないように思える。回答率悪い。	方針があり、契約時に家族に説明し同意を得ている。実際に重度化した場合は、家族に再度、終末期の対応について説明し、医師や関係者と話し合い、方針を共有してチームで取り組んでいる。事業所で行った看取りの事例について職員で話し合っ、医療機関や家族との連携について学んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事業所内ではひやりはつとを取りまとめたり、研修をしているが、実践的な訓練は行えていない。	インシデント、アクシデント報告書に記録し、その場にいた職員で対応策を話し合い、ミーティングで検討し、介護計画に反映させるなど、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の訓練はしていない。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一度法人全体で消火消防訓練を行ったのみ。事業所内研修は火災のみで、すべての災害時の対応の研修はまだできていないし、実際の手法や地域との協力体制についてはまだ築いていない。	法人全体で火災時を想定した消防訓練を実施している。事業所では研修で火災時対応をフローチャートで表したもので確認している。災害時の避難訓練は実施していない。地域との協力体制は築いていない。	・避難訓練の実施 ・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努めているが、毎日職員一人一人が気をつけなければならないと感じる。言動のチェックリストを研修して掲示したり、トイレの際には、できるだけ小さな声で話したり、隠語を使うようにしている。	職員は利用者を大切な人として、人生の先輩として敬意を払って接している。法人の接遇委員会に参加した職員がミーティングで報告している他、言動のチェックリストで学び、1年に1回チェックを行い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録等は保管し、取扱いに注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮されたり気を使われたりする場面も多いが、そのように働きかけている。何でも職員が判断せず、ご本人にお聞きすることを大切にしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している。その日一日の過ごし方を任せられたり、結局は決めさせてもらうことも多いことに責任の重さを感じる。できるだけスケジュールを設けずに、自由に過ごしていただけるようにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着なれた服を着ていただいたり、何を着るか選んでいただいたり、ご本人に好きな色を聞いて買い物の参考にしたりしている。理美容院の支援もしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	今できる範囲のことはしているが、厨房業者とのからみがあり、食事作りはあまりできていない。もっともっと事業所でできることを増やしたい。	食事は三食とも法人の栄養士の献立で同じ建物内にあるレストランに外部委託したものを利用している。味噌汁やご飯、茶がゆ、おやつなどは事業所で作っている。畑で取れた野菜を調理し、一品として添えることもある。利用者はテーブル拭きや食器拭きなどできていることをしている。行事(誕生会や季節を感じるイベント等)の際には、随時(3ヶ月に1回)事業所で昼食づくりをしている。職員は利用者と一緒にテーブルを囲み同じものを食べ、その日のおかずなどを話題にして会話しながら、楽しく食事が出来るように支援している。外食を楽しむこともある。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。皆さんの好みを把握しているし、体調的にも安定しており、極端に食事や水分量が少ない、という方は現在いない。逆に、体重が増加している人への対応が今後の課題。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後はしていない人もいる。また、人によっては訪問歯科や受診を利用している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	行っているが、おむつ外しまでには至っていない。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握して、一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいるが、薬に頼っているのが現状。まだ不十分だと感じる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	日常的には夕方からの入浴だが、「入りたい」という気持ちを大切に、日中の時間でも対応している。また、入りたい方は毎日入浴されるし、順番も決めていない。同性介護もしている。	入浴は毎日16時から20時ごろまで可能で、利用者の希望や体調に合わせて、ゆっくり入浴を楽しめるように支援している。日中の入浴にも対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の薬のリストをファイルにしており、何かあればすぐに見られる状態にはしているが、完全には把握しきれておらず、できていない。服薬支援についても、時々薬が床に落ちているというひやりはつがあったりするもので気をつけていきたい。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。今一番頑張っている。	洗濯物干し、たたみ、畑づくり、花の水やり、草取り、メダカの餌やり、縫い物、調理、テレビ視聴(歌番組、バライティ、水戸黄門、野球など)カラオケ、歌を歌う、新聞や雑誌を読む、ラジオ、花札、トランプ、ジェンガ、しりとり、DVD視聴(映画)、花つみをし押し花にして葉書づくりをしたり部屋に飾る、フェイシャルエステをしてもらう、朗読、山本五十六や司馬遼太郎の講座を職員に向けてするなど、楽しみごとや活躍できる場面を、利用者一人ひとりに合わせて作り、張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援している。入居者の方全員同じようにというわけにはいかないが・・・。	散歩や買い物、公園、外食、美容院、墓参り、お大師様のお接待、花見、いちご狩りなど、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	努めているが、ご本人がお金を持つことを希望しない人もいます。希望される人で、自分で所持できる方には所持していただき、買い物などの支払いをしてもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援しているが、電話はよくあるが、今の所手紙はない。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫をしている。毎日の掃除やお花を飾ったり、メダカを飼うなど。トイレも殺風景にならないように配慮している。玄関のセンサー音については、入居者の方から意見があり変更した経緯あり。	事業所は、校舎を改造して作った施設の3階にあり、共用空間は広々して、明るく、台所や食堂、居間、畳のスペースがあり、窓からは山々や家並みを眺めることができる。畳のスペースに炬燵を置き、横になって休んだり、ゲームをしたりできるなど、一人ひとりの居場所づくりをしている。畳のスペースと居間の間仕切りに古くて味わいのある整理棚が置いてあり、居間には、テーブルやいす、テレビ、ソファを配置し、壁面には活動の写真を飾り、季節の花を飾っている。温度、湿度、換気、音に配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には使い慣れたものや好みのものに囲まれて生活してほしいと伝えているが、ご家族が用意されたものになっているのが現状。	整理棚、ダンス、衣服かけ、ラジオ、テレビなどを持ち込み、写真や似顔絵を飾ったり、好みの日用品を置き、居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームほうばいの絆

作成日：平成 26年 3 月 10 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	法人の理念だけでなく、事業所独自の理念の意識づけが不十分である。	法人・事業所の理念の共有と実践	事業所の理念については、玄関を入ってすぐの所に掲示し、職員にも目に入りやすいようにする。法人の理念も事務室の職員の目の届く所に掲示する。また、月1回のミーティングで定期的に理念について考える機会を作るようにする。	1年
2	35	事故発生時の対応に不安がある。	事故発生時の応急手当や初期対応の実践的な訓練	内部研修の年間計画を立て、定期的に実践的な訓練を行う。	1年
3	36	災害時の対応に不安がある。	災害発生時の避難方法や役割分担などの実践的な訓練	法人での避難訓練への参加だけでなく、内部研修の年間計画を立て、事業所で定期的に実践的な訓練を行う。	1年
4	5	運営推進会議の場は、まだまだ顔合わせ的な意味合いや、事業所の活動の広報という意味合いが大きく、事業所運営の報告が主な内容。事業所の具体的なサービス向上に結び付いていない。	運営推進会議を事業所及び具体的なサービス向上に活かすための会議の開催	他事業所の運営推進会議で話し合っている事など情報収集する。そのためにも他事業所の運営推進会議へ参加したり、参加してもらったりする働きかけをしていく。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。